

になるものは、年齢が小さい程多い。最低気温が24.0℃以上と発汗しやすい室温となると、全年令で、体温が37℃以上になるものが圧倒的に多い（乳児95.5%，幼児73.7%，小学生100%，中学生100%）。

2 心身障害児（C.P.）

測定は一週間続けて、1回でも37.0℃以上のものはとりあげて、135例について検討した。殆んど患児はCPであり、乳児、幼児及び学童に区分し、最高気温（室温）が26℃未満と最高気温（室温）が26℃以上29℃以下に分け、更に最低気温（室温）を20℃から30℃に至るまで分けて、図示すると図2の如くなる。

体温37.0℃以上のもので

最高室温26℃以上29℃以下のもの	71/82例	86.6%
最高室温26℃未満のもの	50/53例	94.3%
全例	121/135例	89.6%
最低室温24℃未満のもの	51/59例	86.4%
最低室温24℃以上のもの	85/95例	89.5%

以上の結果より、CP児では、最高気温（室温）が26℃未満でも、非常に高率に体温が37.0℃以上になることが多い（89.6%）、しかも、正常児と違って、最低気温（室温）が24℃以上であれ、24℃未満であれ（それぞれ89.5%、86.4%である）、体温が37℃以上になることが非常に高率である。このCPの体温上昇と発達のおくれ（例えば首座りのおくれ）やひきおこし反応などの反射をくみあわせれば、日常診療でのCPの早期発見にかなり有効なものとなるらう。

18. 小児における体温の日内リズム

その3、障害児の体温

南部 春生（北海道社保中央小児科）

阿部 和男（国立札幌病院小児科）

表1に示すごとく、進行性筋ジストロフィ、脳性小児麻痺、その他の精神神経疾患について重

症度別（1：動きまわれない、2：動きまわる、3：身の回りのことが出来る）に計208例の障害児の体温の日内リズムを検討した。各被験者は昭和53年11～12月の冬季間で室温20～22℃、腋窩検温を5分間行うことを原則とした。正確な検温の不可能な場合は電子体温計を使用した。

今回はこれら障害児のうち筋ジストロフィの患児について検討を行い、表2、図1に示すような成績を得た。なお対照値は成人15例によって得たものである。結果は図に示したごとく、いづれの障害児も対照と同様の日内リズムを示していたが、その最高体温、最低体温とも対照に比して低値を示し、最高体温では2、3群で、最低体温は1、2、3群ともに有意に低い値であった。筋ジストロフィの患児は筋における熱産生が乏しいことが特徴であるが、この成績でみる限りでは重症度による差異はなく、正常対照群と有意な低値を示した他は日内リズムも同様の推移であった。

表1 障害児の重症度別調査例数

重症度 疾病	1		2		3		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
D M P	24	7	15	1	20	2	59	10
C P	19	6	16	18	2	1	37	25
その他	11	13	31	17	1	4	43	34
計	54	26	62	36	23	7	139	69

注：DPN～進行性筋ジストロフィ、CP～脳性小児麻痺

重症度1：動きまわれない（重症）

2：動きまわる（中等症）

3：身の回りのことが出来る（軽症）

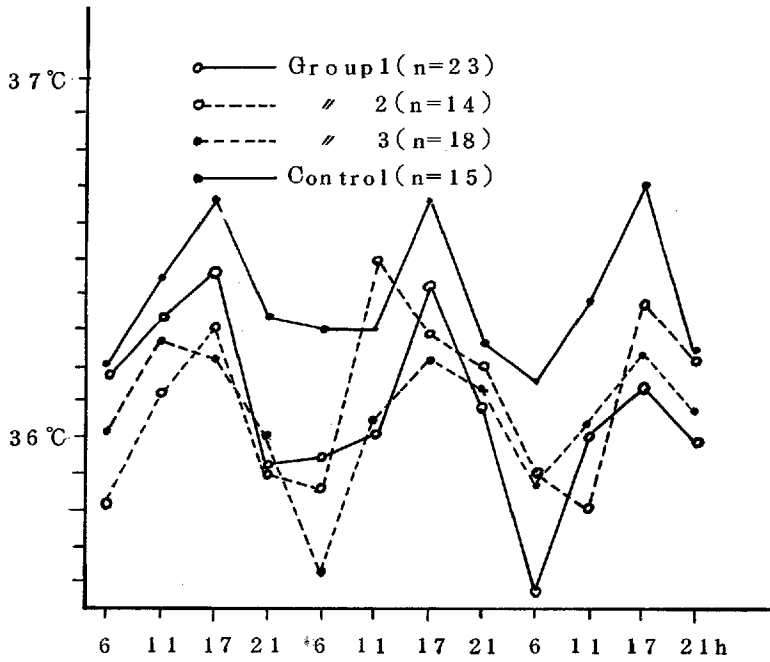


図1 DMP患児の3日間に亘る体温の日内リズム

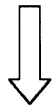
表2 DMP患児の最高最低体温と日内リズムの振幅

	Number	Maximal temperature	Minimal temperature	Amplitude
		Mean±SE	Mean±SE	Mean±SE
Control	15	36.73±0.06	36.06±0.09	0.65±0.05
Group 1	23	36.60±0.05	35.58±0.05	0.99±0.06
2	14	36.54±0.06	35.63±0.09	0.84±0.07
3	18	36.52±0.04	35.61±0.05	0.88±0.04

P<0.05

vs control

P<0.01



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

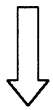


表 1 に示すごとく, 進行性筋ジストロフィ, 脳性小児麻痺その他の精神神経疾患について重症度別(1:動きまわれない, 2:動きまわる, 3:身の回りのことが出来る)に計 208 例の障害児の体温の日内リズムを検討した。各被験者は昭和 53 年 11~12 月の冬季間で室温 20~22, 腋窩検温を 5 分間行うことを原則とした。正確な検温の不可能な場合は電子体温計を使用した。

今回はこれら障害児のうち筋ジストロフィの患児について検討を行い, 表 2, 図 1 に示すような成績を得た。なお対照値は成人 15 例によって得たものである。結果は図に示したごとく, いづれの障害児も対照と同様の日内リズムを示していたが, その最高体温, 最低体温とも対照に比して低値を示し, 最高体温では 2, 3 群で, 最低体温は 1, 2, 3 群ともに有意に低い値であった。筋ジストロフィの患児は筋における熱産生が乏しいことが特徴であるがこの成績でみる限りでは重症度による差異はなく, 正常対照群と有意な低値を示した他は日内リズムも同様の推移であった。